慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	新収資料一覧 (その三)
Sub Title	A list of early books newly housed in Shido bunko part3
Author	堀川, 貴司(Horikawa, Takashi)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	2019
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.54 (2019.) ,p.121- 176
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	佐藤道生前文庫長退職記念
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20190000-0121

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

新収資料一覧（その三）

堀川　貴司　編

前輯掲載「新収資料一覧（その二）」以後に整理した古典籍（一部複製本等を含む）の一覧である。

記述事項は前々輯・前輯と同じく、書名、作成地（和漢韓洋）の別および判型、請求番号、編著者、成立年時、刊写の別および刊写者、特徴的な事項、蔵書印・書入等である。請求番号は三段から成る。上段が日本十進分類法新訂6―A版に基づき独自の改編を加えたもの、ただし、配架の都合上貴重書・特殊形態本に独自の番号を与えている。すなわち、091が貴重書、092が箱入り等特殊形態の貴重書、B1が準貴重書、B2が特殊形態の準貴重書である。中段が同一分類内での通し番号（古典籍の場合番号の前に「ト」を付す）、下段が員数を表す。

今回は、数年前に藤園堂書店から一括購入したまま未整理だった久曾神昇旧蔵の歌合写本類、また、田宮道雄氏から寄贈された田宮家伝来の御蔵書を整理掲載した。学者の家としての田宮家は田宮宇内（一七六一～一八三〇）に始まる。本姓は濱、土佐国香美郡赤岡村（現在の香南市の一部）の郷士の出身で、江戸・大坂に学び、帰郷して北固私塾を開設、また藩主の侍講となった。その子穆風斎は維新後大阪に移住し、医師を開業したらしい。蔵書は儒学書・

医学書という家業に関わるものの他に、貸本屋から流れたものを中心に、小説類や浄瑠璃本が豊富である。火災に遭った残存本らしく、端本が多く、焦げや水濡れによる傷みもあるものの、宇内・穆風斎の自筆稿本や日記を含めこれだけの本が伝わったのは幸いとせねばなるまい。なお、浄瑠璃本の整理については神津武男『浄瑠璃本史研究』（八木書店、二〇〇九）に多くを負っている。

御寄贈頂いた田宮道雄氏に感謝申し上げる。

○　総記

目録學二巻　　唐大　020 ト7 2

劉咸炘撰　　民国二三年（一九三四）八月刊（〔成都尚友書塾〕）

推十書（雙流劉鑑泉先生遺書）のうち。

艮齋文略三巻附東省日録・南遊襍記　續三巻　艮齋詩略一巻　艮齋閒話二巻　續二巻　　和大　081 ト14 11

安積艮齋撰

（文）〔天保二年（一八三一）一〇月〕刊嘉永六年（一八五三）一二月印（續・詩）同年同月刊（話）天保一二年（一八四一）三月刊（續）嘉永四年（一八五一）四月刊

文・續・詩（江戸：千鍾房須原屋茂兵衛）　話・續（江戸：須原屋高橋源助）

嘉永六年三月杉原心斎序、文略・文略續ともに存す。艮斎五言絶句詩箋（藍色梅花下絵刷）を付す。印記：西波多／腰藏書（文略・文略續）、熊尚（話・話續）、月瀬文庫、中田祝夫／臧書之印

〔古逸叢書幷関連資料〕

清黎庶昌編幷撰　明治八年（一八七五）至一七年刊（遵義黎氏日本東京使署）　和特大　092 ト17 167

巻数附録等を略す。1. 叙目（森立之識語あり）、2. 爾雅、3. 春秋穀梁傳、4. 論語（茶染料紙、楊守敬献呈識語あり）、5. 周易、6. 孝經、7. 老子道德經、8. 荀子、9. 南華眞經注疏、10. 楚辭、11. 尚書釋音、12. 玉篇（三冊のうち第三冊は巻十八之後分のみの石印本で、第一冊末尾と重複、ただしこちらは欠筆なし、末尾印記実捺、楊守敬献呈識語あり）、13. 廣韻（景宋刊本、立之識語あり）、14. 廣韻（景元刊本）、15. 玉燭寶典、16. 文館詞林、17. 琱玉集、18. 姓解、19. 韻鏡、20. 日本國見在書目、21. 史略、22. 漢書食貨志、23. 急就篇、24. 杜工部草堂詩箋、25. 碣石調幽蘭、26. 天台山記、27. 太平寰宇記、28. 玉燭寶典校正刷（四冊、〔楊守敬〕書入）、29. 曾太傅毅勇侯傳略（黎庶昌撰、〔明治一六年〕刊、撰者献呈識語あり）、30. 重九讌集詩（序）（黎庶昌編、〔明治一七年〕刊、立之識語あり）

7. 8. 9. 13. 16. 23. 24に黎庶昌献呈識語紙片挿入、30に姚文棟献呈識語名刺挿入、1. 13. 15に立之メモ挿入。印記：森氏開萬冊府之記（8. 11. 15. 20. 28以外）、森氏（15紙片挿入）、大槻文彦藏（3. 30）

一　哲学

平田伴両翁與予問答消息文

羽田野敬雄編幷撰　平田篤胤・伴信友撰　〔江戸後期〕写（各自筆）　和大　092 ト177 1

巻子本。1. 敬雄筆表題、2. 平田篤胤宛書簡（篤胤書入、文政二年頃か）、3. 慶応三年正月敬雄識語、4. 中山〔美

石〕宛書簡（篤胤書入）、5. 敬雄筆表題、6. 平田篤真（銕胤）宛書簡（篤胤書入）、7. 伴〔信友〕宛書簡（信友書入）、8. 慶応三年正月敬雄識語（年記部分擦消訂正あり）、を合装。

艮齋閒話續二巻存巻上

安積艮齋（信）撰　〔嘉永四年（一八五一）四月〕刊（〔江戸：須原屋高橋源助〕）　和大　121 ト203 1

＊田宮道雄氏寄贈

靖獻遺言講義二巻

〔浅見〕絅斎撰　寛延元年（一七四八）九月刊（京：風月堂莊左衛門）　和大　121 ト202 1

朱注記あり。印記：崑崙堂、森□　＊田宮道雄氏寄贈

〔父母存〕不許友以死之説

浅見〔絅斎〕（安正）撰　闕名者注　元文元年（一七三六）頃写（濱某）　和大　121 ト205 1

刊本の写しに注（講義筆録か）を加えたもの。書写奥書（朱滅）「濱□□謹書寫（花押）」に上書「元文庚申元ころ写之也」。識語：安永三　濱氏宇内（花押）　＊田宮道雄氏寄贈

靖献遺言講義八巻同附講一巻存巻七・八・附講

闕名者撰　〔幕末〕写（〔田宮穆風齋〕）　和大　121 ト206 1

一部別筆か。識語：穆風館藏本　印記：田宮宇治、赤陵逸史　＊田宮道雄氏寄贈

蓑園十筆

〔荻生徂徠〕撰　〔文化元年（一八〇四）〕写（門馬永胤・北莊維則等寄合書）　和大　121 ト200 5

一筆・九筆原欠。料紙薄様。一部に墨句点・圏発・朱引、「直按」で始まる欄上注記あり。各冊首（二、三、四、六、八筆）内題部分削除補紙。五筆末に「甲子冬十月門馬永胤書寫」、十筆末に「北莊維則書寫之」奥書あり。第一冊見返に丙申（天保七年＝一八三六カ）三月拙脩幽人（津阪拙脩カ）取得識語あり。印記：讀杜艸堂、寺田／盛業、字士弘／号望南

紫芝園漫筆〔八〕巻存巻一・二　和大　121 ト204 1

太宰〔春台〕（純）撰　〔江戸中期〕写（一筆）

句点あり。＊田宮道雄氏寄贈

弘道館記述義〔二〕巻存巻下　和半　121 ト201 1

藤田〔東湖〕（彪）撰　〔幕末明治〕刊

慶応二年光霽樓刊木活字版の覆刻整版。尾題部分印刷したものを貼付。印記：□橋（擦消）、大阪／阿彌／陀池／西門／田宮／藏書　＊田宮道雄氏寄贈

〔五經〕存書經〔二〕巻存巻〔下〕　和大　123.0 ト49 1

題山崎闇斎点　〔安永二年（一七七三）刊　江戸後期〕修

題簽「書經　〈山崎闇齋點　再刻〉〈地〉」。一〇行二〇字、版心上縫部に「明和新刊」とあり。第六一至六四張補刻。刊年は和刻本漢籍分類目録による。米の配分（？）に関するメモ紙片挿入。識語：中嶋宇治　＊田宮道雄氏寄贈

〔五經〕存書經〔二〕巻存巻〔上〕　和大　123.0 ト50 1

題山崎〔闇斎〕（嘉）点　〔嘉永〕刊（薩摩府學）

題簽「書經〈山﨑嘉點〉天」。一〇行一九字、版心下縫部に「薩摩府學蔵版」とあり。＊田宮道雄氏寄贈

〔五經正文〕存詩經（シケイ）〔三〕巻存巻上　和大　123.0 ト48 1

〔江戸前期〕刊

闕名者点

朱熹序あり。題簽「詩經〈林家改正點〉上」。左右双辺有界八行一五字、総ルビ、左訓多し。印記：小森／慧（？）明／藏書　＊田宮道雄氏寄贈

東萊呂氏周易音訓二巻　書集傳音釋〔六〕巻　存周易音訓　和中　123.0 ト47 2

（易）〔宋〕呂〔祖謙〕撰　王辛叟編（書）〔元鄒季友〕撰　昌谷精溪（子儼）編幷校点　弘化四年（一八四七）刊（〔津山〕：精溪文房昌谷家藏板）

印記：保教　＊田宮道雄氏寄贈

易經集註二〇巻首一巻欠巻四至八　和大　123.1 ト62 7

〔宋程頤・朱熹〕注　闕名者点　慶安四年（一六五一）刊（京：林甚右衛門）

刊記首末にあり。巻一・二朱訓点訂正、墨注記あり。＊田宮道雄氏寄贈

周易欄外書〔一〇〕巻〔附一巻〕存巻四　和大　123.1 ト61 1

〔佐藤〕一齋撰　〔幕末〕写（〔田宮穆風齋〕）

識語：野陽田宮氏蔵本、穆風齊藏本　＊田宮道雄氏寄贈

書経〔二〕冊存下冊　和大　123.2 ト31 1

天保一〇年（一八三九）正月写（一筆）

周書以下存、本文のみ。一〇行墨刷罫紙使用。朱識語：天保十年正月十九日、赤岡町［田　　］（氏名部分破取）
＊田宮道雄氏寄贈

春秋左氏傳不審録　和半　123.6 ト39 1
〔田宮〕穆風齋（〔竹右衛門〕）撰　〔江戸後期〕写（自筆）
識語：穆風斉　＊田宮道雄氏寄贈

〔四書讀本〕存論語〔集註〕巻八至十　唐半　123.8 ト278 1
〔宋〕朱熹注　闕名者補注　〔清〕刊（簡香齋）
集註本上層に音注及び諸家評注を増補したもの。坦堂文庫ホ123 219 6四書讀本（封面題、〔清末〕北京會經堂・宏道堂刊本）は本書の覆刻か。なお巻八首のみ集註ではなく「章句」に作る。　＊田宮道雄氏寄贈

〔四書章句集註〕存孟子集註巻十一至十四　和大　123.8 ト282 1
〔宋〕朱熹注　闕名者点　〔江戸前期〕印（京：敦賀屋久兵衛）
八行一四字、中黒口双下向黒魚尾。首補写。朱引、墨カナ交じり文注記あり。識語：南陽逸士濱子郭、田宮久太良、田宮唯四郎　＊田宮道雄氏寄贈

〔同〕　存大學〔章句〕　和大　123.8 ト289 1
宋朱熹注　闕名者点　〔江戸中期〕刊
九行一六字、大黒口単黒魚尾。識語：銘（？）磨佐久馬　＊田宮道雄氏寄贈

首書四書集註（版心）存論語〔集註〕巻三至五　和大　123.8 ト283 1

〔宋〕朱熹注　闕名者点　〔江戸中期〕刊

和刻本漢籍目録〔〈鼇頭〉四書集註〕とする。123.8 ト163 4の同版後印。裏表紙欠。＊田宮道雄氏寄贈

〔四書章句集註〕存論語巻三至七　和大　123.8 ト286 2

〔宋〕朱熹注　題〔林羅山〕（道春）点　〔天保〕刊

題簽「〈天保／校正〉論語〈道春點〉　二（三）」（角書丸囲）。九行一五字、中黒口単黒魚尾。青裳堂版と魚尾異なる。「二」表見返に「九月拾四日／九月廿八日　天保五年」とあり。識語：汗見村　長瀬善次所持、野市村田宮氏　＊田宮道雄氏寄贈

〔同〕　存大學〔章句〕　和大　123.8 ト287 1

宋朱熹注　題〔林羅山〕（道春）点〔赤澤一堂（太一郎）改点〕〔天保九年（一八三八）〕刊（〔京：俵屋清兵衛〕）

題簽「〈天保／改正〉大學〈道春點〉全」。一〇行二〇字、中黒口単黒魚尾。＊田宮道雄氏寄贈

倭板四書（版心）存論語〔集註〕巻八至十　和大　123.8 ト284 1

〔宋〕朱熹注　山崎〔闇斎〕（嘉）点　〔江戸中期〕刊

戯書あり。＊田宮道雄氏寄贈

同　存孟子〔集註〕巻十一至十四　和大　123.8 ト285 1

同　明和五年（一七六八）五月刊　寛政七年（一七九五）九月修

＊田宮道雄氏寄贈

〔四書集註〕存大學〔章句〕　和大　123.8 ト288 1

宋朱熹注　後藤〔芝山〕点〔後藤默斎（師周）校〕〔幕末〕刊〔明治〕印（大阪：前川源七郎）
題簽「〈新刻／改正〉大學　全」。有界九行一八字、冒頭三張の下縫部に「後藤點」とあり。識語：田宮春策　＊田宮道雄氏寄贈

論語〔集註一〇〕巻存巻一至五　和半　123.8 ト276 2
〔宋〕朱熹注　後藤〔芝山〕点　〔明治〕刊
四書章句集註のうちか。九行一八字。版心は各冊一巻の表示。題簽角書「明治／新刻」。訓点朱訂あり。＊田宮道雄氏寄贈

四書集註（見返）存大學・論語巻八至十・孟子巻四至七　和大　123.8 ト279 4
〔宋〕朱熹注　佐藤一齋校点　安政四年（一八五七）夏刊〔幕末〕印（大坂：河内屋茂兵衛等一二肆）
題簽に「再刻」とあり。印記：三鶴堂／圖書記　＊田宮道雄氏寄贈

〔又〕　存孟子巻四・五　和大　123.8 ト280 1
〔又〕　〔又〕
題簽に「再刻」とあり。印記：對越／堂藏　＊田宮道雄氏寄贈

四書宜照解（外題）〔一九〕巻存巻十六・十七　唐半　123.8 ト277 1
〔明黄景昉〕撰　〔明〕刊
孟子章句一四巻のうち巻七至十を収める。大聖寺藩旧蔵漢籍に完本あり。＊田宮道雄氏寄贈

〔四書集註大全〕存大學或問・論語集註大全巻三至四　和大　123.8 ト281 2

〔明胡廣等奉勅〕編〔鵜飼石齋校点〕〔慶安四年（一六五一）四月跋〕刊
朱批点あり。識語：穆風齊藏本（大學或問）＊田宮道雄氏寄贈

〔四書〕正文俚諺鈔〔一〇〕巻存孟子巻一　和半　123.8 ト268 1
〔毛利貞齋〕注　〔元禄一二年（一六九九）閏九月〕刊（〔京：福澤次右衛門等五肆〕）
朱熹序説および巻一より成る。印記：倘雲館／圖書／之記　＊田宮道雄氏寄贈

大學講義（外）□巻存天巻　和大　123.8 ト271 1
〔谷〕秦山撰　〔幕末〕写（〔田宮穆風齋〕）
大學章句序および本文冒頭一文の解釈まで存。＊田宮道雄氏寄贈

大學摘説（扉題）　和半　123.8 ト273 1
佐藤一斉（一斎）撰　〔幕末〕写（田宮〔穆風齋〕（説））
外題「古本大學摘説」。書写奥書「後学田宮説謹寫」、朱句点・校注あり、その識語「慶應四建辰月中浣於穆風東軒校讀一過　物水學人悌識」。識語：穆風齊藏本　＊田宮道雄氏寄贈

中庸師説〔不分巻〕（扉）存序・第一章・第二十章至二十九章　和大　123.8 ト275 4
闕名者撰　〔幕末〕写（〔田宮穆風齋〕）
第一冊に序・第一章始、第二冊に第一章、第三冊に第二十章（この冊のみ本文共紙表紙のまま）、第四冊に第二十一章至二十九章を収める。第四冊冒頭「丁巳正月十五日」とあり。印記（第三冊以外）：田宮宇治、赤陵逸史
＊田宮道雄氏寄贈

論〔語〕雕題〔略二巻〕（小口）存〔巻下〕衛霊公〔第十五〕至堯曰〔第二十〕　和大　123.8 ト269 1

〔中井履軒〕撰　〔江戸後期〕写（一筆）

八行墨刷罫紙使用。句点あり。自筆本は上下二巻二冊だが、本書小口書に「下」とあるので、あるいは三冊に分冊していたか。　＊田宮道雄氏寄贈

論語埤註□巻存学而第一至里仁第四・子路第十三至季氏第十六　和半　123.8 ト270 2

〔安積澹泊〕撰　〔幕末〕写（〔田宮穆風齋〕）

第一冊内題には「巻之一」、各冊外題には「上帙」「下帙」とあるが巻数不明、有欠。一〇行墨刷罫紙使用（第二冊のみ「對越堂藏」名入り）。某年十一月十四日付、光・為（？）連名書簡（悦之（＝田宮穆風齋）・おく様宛）挿入あり。　＊田宮道雄氏寄贈

論語欄外書〔二〕巻存巻下　和半　123.8 ト272 1

〔佐藤〕一齊（一斎）撰　天保一四年（一八四三）六月写（〔田宮穆風齋〕）

一〇行墨刷罫紙使用。書写奥書「天保十四卯六月六日吉辰寫之」。識語：穆風舘　＊田宮道雄氏寄贈

孟子欄外書〔二〕巻存巻下　和大　123.8 ト274 1

〔佐藤〕一齋撰　〔幕末〕写（〔田宮穆風齋〕）

識語：穆風齋藏本　＊田宮道雄氏寄贈

荀子二〇巻（見返「荀子全書」）　和大　124 ト271 0

唐楊倞注　闕名者点　延享二年（一七四五）六月刊（京：葛西市郎兵衛好廷）

明嘉靖一二年（一五三三）顧春世德堂刊六子書（伊藤龍洲所蔵）の覆刻。版元および跋者葛西好廷は伊藤仁斎門。和刻本諸子大成一は梅村彌市郎・同彌右衛門との連名刊記を早印とする。巻一至十六に、狩谷棭斎による宋刊本および清・謝墉校勘との対校書入を朱書移写（国会図書館蔵自筆書入本には巻一・二を欠く）。他に墨書書入あり。印記：子大、阿部／臧書、小林／蔵書、金合／文庫

學的二巻

和大　B1 ト243 2

明丘濬編　鵜〔飼〕石菴（信之）点　承応二年（一六五三）六月刊（京：村上平樂寺）

手嶌加左衛門（手島堵庵）宛杉浦千祐（止斎）書簡、近江屋嘉左衛門（堵庵）宛銭屋七郎兵衛領収書（本書及び「四名公語録」）挿入。巻上途中まで頭注あり。その末尾に「亥極月十八日會ニテ休」等のメモ、吉野屋与兵衛名刺裏に記し挿入（共に堵庵筆か）。他筆書入もあり。印記：村上氏藏書

小學〔句讀〕六巻欠巻三・四

和中　125 ト166 3

〔宋〕朱〔熹〕撰、明陳選注　後藤芝山点〔後藤黙斎〕（師周）校　明治一五年（一八八二）二月飜刻御届刊（東京：江嶋伊兵衛、野田：茂木林藏）

全四冊のうち第二冊欠。　＊田宮道雄氏寄贈

明儒學案〔六二〕巻〔師説一巻〕存巻五十三・五十四

唐半　125 ト164 1

清黄〔宗羲〕（梨洲）撰　莫晉・莫階校〔道光元年（一八二一）序〕刊（會稽莫氏）

＊田宮道雄氏寄贈

儒門語要〔六〕巻存巻三・四

和大　125 ト165 1

〔清〕倪元坦編、倪頌堯校〔吉村秋陽（晉）〕校点　弘化二年（一八四五）刊

＊田宮道雄氏寄贈

冲虚至徳眞經〔八〕巻存巻五・六

和大　126 ト68 1

〔晉〕張湛注　〔延享四年（一七四七）七月〕刊

外題「張注列子」。欄上校訂注あり。＊田宮道雄氏寄贈

武經七書合解大成俚諺鈔〔二五〕巻存巻四

和大　128 ト34 1

神田勝久編幷撰　〔享保一三年（一七二八）一二月跋〕刊（山泉堂〔山口屋七兵衛〕）

巻四孫子のみ存。版心下縫部「山泉堂」とあり。山口屋七兵衛の刊記を持つ伝本も同じ版心なので、同書肆の堂号と推定。識語：文化七庚午九月廿七日於市本之代四分／田宮涯（？）四郎貞義（花押）＊田宮道雄氏寄贈

中道

和大　B1 ト240 6

友松圓諦撰　昭和〔四五至〕四六年（一九七〇―七一）写（自筆）

ペン書自筆原稿（別筆割付指示等朱書あり）・執筆メモ・再校校正刷を芳名録等に用いる大和綴裂表紙で五冊に製本したもの。昭和四六年（奥付四五年に誤植する）五月経済往来社刊本（四六判二二〇頁、高木真行宛献呈署名あり）1冊を付す。他に高木秀巖宛弔辞（折本状、墨書、昭和五十五年一月十三日武見太郎名義）を添える。

＊もと、著者より高木秀巖に贈与されたもの。＊慶應義塾仏教青年会ＯＢ会寄贈

往生要集三巻

和大　B1 ト241 6

釈源信撰　〔近世初〕刊

粘葉装、雲母引料紙。承元四年版の室町中期覆刻版の更なる覆刻。原刊記あり。第一冊表紙欠。巻上のみ〔近世初〕付訓書入。印記：善隆寺／藏書印

二　歴史

指掌倭漢皇統編年合運圖三巻〔附大日本國帝王略記・大日本中興武将略記〕欠附録・巻下　和大　203 ト5 2

釈圓智撰　吉田光由補　闕名者補　〔元禄七年（一六九四）〕刊

第一冊に附録、第二・三冊目録題「大日本國帝王年代目録」として分巻、本文は不分巻。各冊冒頭末尾に元禄七年からの年数を表示。　＊田宮道雄氏寄贈

保建大記打聞三巻存巻三　和大　211 ト29 1

栗山潛鋒撰　谷〔秦山〕（重遠）注　享保五年（一七二〇）正月刊（京：茨城方道）

本文末木記に加え、裏見返に茨城多左衛門の刊記（年記なし）あり。裏表紙欠。　＊田宮道雄氏寄贈

日本政記一六巻欠巻八至十三　和半　211 ト30 6

頼山陽撰　〔幕末〕写（〔田宮〕穆風齋）

巻七・十六のみ一巻一冊、他は二巻一冊。巻五・六裏表紙に「穆風齋野史書寫」とあり。識語：穆風齋藏書（巻七）、穆風館（巻十六）　＊田宮道雄氏寄贈

善隣國寶記三巻　和大　211 ト28 1

釈瑞谿〔瑞渓〕周鳳編　明暦三年（一六五七）三月跋刊（後印）

無刊記。扉「大唐朝鮮／善隣國寶記／本朝寶簡　神雒／壽梓」とあり。三冊合一冊。神田家旧蔵本（表紙貼紙の体裁が他と共通）。印記：〔印文不明黒円印・長方印〕、吉／富景樓／田、浪華藏

立齋先生標題解註音釋十八史略七卷存卷三・四・七　和大　222ト155 2

〔元曾先之〕撰〔明〕陳殷音釋　王逢校　闕名者点　寛保三年（一七四三）六月修（京：岩垣善兵衛、今村八兵衛）

〔慶安元年刊〕万治二年九月印本の版心を双魚尾中黒口から単魚尾白口に修正。墨校注、朱句点・批点等あり。

＊田宮道雄氏寄贈

資治通鑑〔二九四〕卷〔序目一卷〕存卷六十五・六十六　和大　222ト159 1

〔宋〕司馬光撰〔元〕胡三省注　明治一七年（一八八四）一二月写（〔田宮〕穆風齋）

書写奥書「明治十七年甲申旧暦冬十月廿四日濟／穆風齋危翁書写」。書写年月は新暦に換算する。＊田宮道雄氏寄贈

同　存卷二百八十一・二百八十二・二百九十一冒頭　和半　222ト160 2

〔宋〕司馬光撰　慶応二年（一八六六）七月写（〔田宮〕穆風齋）

巻二百八十一・二表紙に「慶應二年丙寅七月七日寫濟」とあり。胡三省音註は省略、一部欄上に注記する。句点、鉤画（段落の終わりを示すカギ括弧）あり。ごくわずかに別筆あり。＊田宮道雄氏寄贈

史記評林〔一三〇巻補史記一巻首目一巻〕存卷五・六・九十一至百二十二・百二十六至百三十　和大　222ト161 7

〔明〕凌稚隆編　李光縉補　闕名者点　寛文一二年（一六七二）至延宝二年（一六七四）五月刊（京：八尾甚四郎友春）

題簽「〈新／版／考／正〉史記評林」（巻次表示なし）。原装縹色布目型押石畳菊花艶出表紙、二六・二×一九・〇糎。

首欠のため確認できないが、後修本の可能性あり。背に「共廿五」と墨書。朱訓点訂正注記あり。巻百七至百十一の冊に輯製二十万分一地図の宇和島（明治二二年一〇月刊）靜岡（明治一九年刊）挿入。＊田宮道雄氏寄贈

漢書評林一〇〇巻首一冊　和大　222 ト154 35

明凌稚隆編　釈玄朴点　明暦四年（＝万治元年、一六五八）三月跋刊（〔京〕：和泉掾林時元）

朝鮮改装、文書反古を表紙裏打に使用。印記：尹庚／紀印、讀杜／艸堂、時枝臧書

増補元明史略〔四〕巻存巻一冒頭　和半　222 ト157 1

後藤〔芝山〕〔世鈞〕編〔山本清渓〕〔藤原正臣〕補〔明治〕写（一筆）

江戸時代刊行本の転写か。識語：明治十三年卯八月三日生　＊田宮道雄氏寄贈

南疆繹史勘本〔三〇〕巻存巻一（首欠）・三・十八・十九・二十二・二十三　和大・半　222 ト158 4

〔清〕温〔睿臨〕撰〔李瑤〕補〔幕末〕写（〔田宮〕穆風齋）

巻二・三のみ半紙本、裏表紙書写奥書「維時慶應二春王之二月寫焉／鈍句齊」。他は大本。墨訂正、朱句点・批評あり。

＊田宮道雄氏寄贈

古人名乗早見（下札）　和大　281 ト18 1

闕名者編　〔江戸初期〕写（一筆）

書名は前遊紙裏貼付の下札に従う。南北朝から江戸初（寛永一二年現在の官位を記すもの多し）の公家・武家・連歌師等の諱・法名等を頭の漢字別に並べ、姓名官位没年等を注記する。両菟玖波集入集状況に詳しい。最終張裏別筆追加あり。

標題徐狀元補注蒙求〔三〕巻存巻下　和大　282ト24 1

〔唐〕李瀚撰幷注　宋徐子光補注　〔服部〕南郭校〔点〕　寛保元年（一七四一）三月印（江戸：植村藤三郎、京：栂井藤右衛門）

末尾に植村藤右衛門広告あり。栂井＝植村か。表裏表紙欠。　＊田宮道雄氏寄贈

同　三巻存巻上　和大　282ト25 1

唐李瀚撰幷注　宋徐子光補注　岡白駒箋註、佐々木向陽（珏）標疏　〔明治〕刊

覆安政五年刊本、巻首地図墨・浅葱色二色刷。原題簽書名末尾に「〈反刻〉」とあり。印記：對越／堂臧（方印）

＊田宮道雄氏寄贈

三　社会科学

公事覚書諸差出類　和半　322ト28 1

〔江戸後期〕写（自筆）

閼名者撰

例文の差出人氏名に「田宮揮甫」とあるものあり。穆風齋周辺人物の著作か。　＊田宮道雄氏寄贈

蒙求官職考三巻　和大　322ト27 2

〔林〕羅山撰　明暦三年（一六五七）七月刊後印（京：水田甚左衛門）

＊田宮道雄氏寄贈

四　自然科学

醫方大成論　和大　490 ト10 1

元孫〔允賢〕撰　闕名者点　〔江戸前期〕刊後印（大坂：澁川清右衛門）

一一行一七字、明朝体。尾題・刊記部分入木。朱墨注記・訓点書入。識語：明和五〈子〉年求、承玄　＊田宮道雄氏寄贈

漫游雜記〔二〕卷附獨嘯囊語存漫游雜記卷上　和大　490 ト9 1

永冨獨嘯庵（鳳）撰　松岡士藏・藤原元幹校　文化六年（一八〇九）〔二〕月刊

識語：思思亭藏　＊田宮道雄氏寄贈

解剖訓蒙一一篇〔二〇〕卷存第一至五篇卷一至十一（尾欠）　和半　491 ト31 1

米・約瑟列第（ジョセフレデー Leidy, Joseph）撰　松村矩明等訳　明治五年（一八七二）刊（大阪：敦賀屋松村九兵衛、巻一至三大阪醫學校・巻四以下啓蒙義舎蔵版）

巻二・三末刊記は河内屋吉兵衛と連名。啓蒙義舎蔵版本は大阪醫學校蔵版本の求版後印か。印記：三鶴堂／圖書記　＊田宮道雄氏寄贈

原病學通論九卷　和半　491 ト1 5

蘭・亞爾蔑聯斯（Ermerins, Christian Jacob）撰　村治重厚・熊谷直温・安藤正胤編訳　明治七年（一八七四）刊（〔東京〕：三友舎蔵版、山中市兵衛發兌）

藍刷引札（大坂みなとばし南づめ半丁西江入ル大来田あはや）挿入あり。印記：大阪／阿彌／陀池／西門／田宮／藏書　＊田宮道雄氏寄贈

日講記聞原病學各論〔一八〕巻存巻六・十二・十三　和半　491ト2 3

蘭・越尓蔑嗹斯（Ermerins, Christian Jacob）撰　高橋正純・〔三瀬諸淵（周三）〕訳　岡澤貞一郎校　〔明治九年（一八七六）一月序至一三（一八八〇）年二月〕刊（大阪：書籍会社、大阪公立病院藏板）

刊記各冊にあり。存巻部分は高橋正純単独訳。巻六は書袋を裏返してカバーに使用。その上に外題および「川口博」と墨書。印記：川口博（巻六のみ）、大阪／阿彌／陀池／西門／田宮／藏書　＊田宮道雄氏寄贈

日講記聞藥物學二〇巻存巻九至二十　和半　499ト31 2

蘭・越尓蔑嗹斯（Ermerins, Christian Jacob）撰　岡澤貞一郎・物部誠一郎訳　〔明治六年（一八七三）〕序刊（大阪：書籍会社、大阪府病院〔蔵版〕）

訳者名巻二十末に記す（巻一至八岡澤、九至二十物部）。巻二十末「大阪病院出版」広告あり。巻十三・十八・十九書袋あり、巻十に『内科摘要』の書袋あり。印記：大阪／阿彌／陀池／西門／田宮／藏書　＊田宮道雄氏寄贈

五　工学

砲術捷径秘録追加（目）　和半　559ト1 1

〔大木藤十郎〕撰　〔幕末〕写（〔田宮穆風齋〕）

外題「捷徑秘録追加」。図多数。　＊田宮道雄氏寄贈

七　芸術

〔田宮樂篆刻印影〕

田宮樂刻　〔明治〕刻　和　B1 ト258 1

「田宮樂先生作」と上書のある包紙に入った印影六枚。印記「方明」「原」「原水」「青松白石」「我思古人」「印紙」。包紙には「原」とセットで「水」印も押捺。　＊田宮道雄氏寄贈

〔大島雅太郎所用印〕

樵石刻　大正一三年（一九二四）春刻　和　092 ト178 1

石印。印記：青谿／書屋、側款：大正十三甲子年春、樵石作、大吉羊家富昌樂　＊西秋幸男氏寄贈

〔常磐津節正本寄本〕

岸澤喜志編　〔幕末〕刊（名古屋：玉沢屋新七）　和半　768 ト2 1

合綴本。表表紙欠、見返（墨書内容一覧）存。裏表紙存、浅葱色に三つ竜胆紋白抜。内容（外題による）は、1．子寶三番叟、2．八百萬園生の梅か枝（表紙のみ存、本文切取）、3．心中浮名の鮫鞘、4．〈梅川／忠兵衛〉道行恋三度笠上、5．同下、6．小いな半兵衛、7．〈おはな／半七〉道行、8．〈おその／六三〉道行、9．しら糸主水上ノ巻、10．油屋、11．高尾、12．加賀見山敵うちのだん、13．三かつ子別段、14．雪責段、15．夜仇討曾我、16．宗清、17．忍夜戀曲者、18．老まつ　裏表紙墨書「岸澤喜志」、心中浮名の鮫鞘表紙朱書「喜寿太夫」。　＊田宮道雄氏寄贈

みるまゝの記（外）　和中横　B1 ト245 1

〔古筆了伴〕編　嘉永三年（一八五〇）写（自筆）

槐記・一枝菴書留・櫻山聞書等から茶道具の記事を分類抜粋したもの。東洋文庫に嘉永元年筆『見るままの日記』あり。

碁經精妙（外）四巻欠巻一　和大　795 ト1 3

林元美撰幷編　天保六年（一八三五）六月刊（江戸：須原屋伊八等三肆）

印記：三鶴堂／圖書記　＊田宮道雄氏寄贈

八　言語

韻鏡　和大　821 ト20 1

闕名者撰（首）宋張麟之撰　寛永一八年（一六四一）八月印（〔京〕：田原仁左衛門）

〔江戸初〕刊本の後印。無訓本。詳密書入あり。補修あり。識語：宣興、印記：常松／□躬、子愼／氏

大廣益會玉篇〔三〇巻首一巻〕存巻十五至十九　和大　823 ト36 1

〔唐孫強〕編　闕名者点　〔慶安四年（一六五一）〕刊

覆寛永二一年刊本、ノド張付「五ノ幾」。　＊田宮道雄氏寄贈

九　文学

詠歌之大概

〔藤原定家〕撰　〔室町後期〕写（伝空雅）　和半　091 ト432 1

列帖装、裂表紙。初代朝倉茂入極札「八幡橘本坊空雅筆〈詠歌之大概〉」貼付。空雅は飛鳥井雅綱息。飛鳥井流書風。久曾神昇旧蔵。

歌叢

山口親尹編　明治一八年（一八八五）四月至二四年八月以降写（自筆）　和半　911 ト203 1

薄葉縹色刷一四行罫紙。歌に関する記事の抜書。末尾に西公談抄あり（「圓満院殿宝庫ノ本ヲ写」と注記）。久曾神昇旧蔵。識語：山口親尹

〔竹亭和歌読方条目〕

〔姉小路実紀〕撰　〔江戸後期〕写（一筆）　和大　911 ト215 1

薄葉料紙。序跋なし。911 ト124 1と同装訂・同筆。久曾神昇旧蔵。

萬葉集二〇巻（外「萬葉和歌集〈校異〉」）

闕名者編　文化二年（一八〇五）冬刊（〔江戸〕：出雲寺文治郎）　和大　911 ト159 7

全二〇冊合七冊。鈴木重胤・光胤朱墨青書入。弘化二年（一八四五）重胤対校識語あり。

古今和歌集遠鏡〔二〇〕巻存序・巻一至二

本居宣長撰　〔寛政九年（一七九七）〕刊（名古屋：永樂屋東四郎）　和大　911 ト217 1

尾題冊末のみ「とほかゞみ一の巻のをはり」とあり、全六巻の表示。裏見返に文政六年（一八二三）刊『遠西観象圖説』の広告を載せる。識語：柴原孝治、印記：源／孝治　＊田宮道雄氏寄贈

〔古今集仮名序注〕　和大　911 ト214 1

闕名者撰　〔江戸後期〕写（一筆）

薄葉料紙。冒頭に寛政一〇年四月郡山城内において自観なる人物が「高貴老和上」からの古今伝授に関する聞書を載せる。注の系統不明。911 ト215 1と同装訂・同筆。久曾神昇旧蔵。

續後拾遺和歌集二〇巻　和大　911 ト162 2

〔二条為定〕編　〔江戸前期〕写（一筆）

押八双あり。一首一行書、近衛流書風。第一類本（深津睦夫氏分類による）。印記：束間郡／窪田氏／圖書記、松門文／庫所藏、青谿／書屋、宮下藏書

新古今和歌集二〇巻欠巻十六至二十　和大　911 ト158 3

源通具等編　〔江戸前期〕刊

全四冊のうち第四冊欠。本書は正保版と同版・同程度の刷り、無刊記本の後印。本歌・他出等注記、仮名遣訂正等の朱書入あり。印記：寶／純

臨永和歌集一〇巻　和半　911 ト157 1

闕名者編　〔幕末明治〕写（一筆）

天保八年（一八三七）正月本奥書に、黒田家蔵本（現蔵穂久邇文庫）を転写校訂した旨記す。ただし同本にない

歌を補ったところがある。「市古」名入り原稿用紙メモ挿入。印記：〈筑／前〉菊池文庫／壹萬巻之内」「菊池長秋」

〔名所和歌集〕　和大　B1 ト246 1

闕名者編　〔江戸初期〕写（一筆）

二冊合一冊（元下冊近江国より始まる）。『歌枕名寄』と同じく、国別・歌枕別に例歌列挙。末尾に「二十一代集御在位幷撰者巻頭哥」を付す。久曾神昇旧蔵。

㝡勝四天王院障子和歌建永二年〔道助法親王〕五十首和歌　和大　B1 ト249 1

〔後鳥羽院〕等詠・道助法親王等詠　〔江戸初期〕写（一筆）

外題なし。合写本。近衛流に近い筆跡。（㝡）は第一類本、合点・集付あり。（道）は後鳥羽院合点あり。九条家本。久曾神昇旧蔵、同氏メモ挿入。

藏玉集附弘徽殿上御壺禰　和半　911 ト213 1

闕名者編（附）閑院宮典仁親王等詠　〔江戸後期〕写（一筆）

（藏）版本とは別系統。「あすか」なる人物の本奥書あり。（弘）日本古典籍総合目録データベース「弘徽殿上御壺詠」とする。寛政二年詠か。久曾神昇旧蔵。同氏メモ挿入。印記：山中／習圖／書印、久曾神／藏書

弘長百首（目）　和大　911 ト161 1

實空（西園寺実氏）等詠　〔江戸中期〕写（一筆）

五つ目綴、縦長本。外題「弘長百首〈号七玉集〉」巻首題「詠百首和歌」。第四類本。墨訂正、朱合点あり。印記：日野庫、篁園文庫、藤井文庫

詠百首和歌（外）

〔足利〕義政詠　〔江戸後期〕写（草葉軒露花）　和半　911 ト160 1

列帖装、料紙間似合紙。1．詠百首和歌（寛正三年九月至十二月）、2．着到（文明元年九月至十二月）、3．詠百首和歌（同四年九月より）、4．詠百首和歌（同十三年）、5．詠五十首倭歌（同十七年四月）、6．詠百首和歌（同年九月至十二月）を収める。末尾に書写者詠狂歌二首あり。印記：聴濤／寶（？）、成／雅（？）

後西院聖撰集外歌僊

後西院編　〔江戸後期〕写（一筆）　和半　911 ト216 1

外題「集外歌仙」。寛文五年二月交野内匠頭本奥書あり。久曾神昇旧蔵。

夏日陪勝軍地藏大権現寶前詠十首和歌

冷泉為村詠　宝暦元年（一七五一）六月写（自筆）　和大　092 ト172 1

巻子本、檀紙懐紙四枚継、和歌一〇首を三枚に記し、その奥に同年十二月追筆識語一枚あり。附属資料1．愛宕山長床坊覚然宛為村書簡（同年六月二十日付）、2．覚書（包紙ウハ書）　長床坊月番村上宗竺による奉納等の経緯を記したもの、3．外題（包紙ウハ書）　同年十二月に覚然の依頼によって為村が「奉納懐紙」と墨書した題簽。表装および箱は覚然の誂えで、同人の箱書あり。また、別に長床坊宛五味備前守〔豊直〕書簡を付す。

亭子院哥合延喜十三年三月十三日

（亭）伊勢等詠（在）闕名者詠（亭）〔宇多法皇〕判（在）闕名者判　〔江戸中期〕写（一筆）　和半　911 ト208 1

（亭）二十巻本系統。朱注記（他出等）あり。久曾神昇旧蔵。表紙に書簡反古使用。印記：米齋／中之／右圖／左史（久

保田米斎）、寧楽舎

〔平安期歌合四種〕　和半　911 ト198 1

闕名者編　〔明治〕写（一筆）

臙脂色刷一〇行罫紙使用。1．内裏歌合〈天徳四年三月晦日〉（漢文日記を欠く）、2．高陽院七首歌合〈寛治八年〉（狭本系、勝負付・集付あり）、3．若狭守通宗朝臣女子達歌合〈或經平大弐家哥合〉（第二類・勝負付なし）、4．建春門院北面歌合〈嘉應二年十月十六日〉（乙本系、勝負付・集付あり）　久曾神昇旧蔵。

長元八年賀陽院十番歌合（外）　和半　911 ト186 1

〔藤原行経〕等詠　〔大〕中〔臣〕輔親判　寛文一三年（一六七三）正月写（岡田善政）

本文共紙表紙、紙縒綴。賀陽院水閣歌合。書写奥書に西行筆本（益田家旧蔵十巻本類聚歌合原本）の写しである旨記す。久曾神昇旧蔵。

三十六人哥合（外）　和半　911 ト185 1

闕名者編　〔江戸中期〕写（一筆）

薄葉料紙。一面一首色紙形散らし書。外題に続けて「〈巻頭五葉持明院／四行三字〉卅」とあり。第一首「ほのほのと」のみ四行三字に記す。久曾神昇旧蔵。印記：横田藏書

〔郁芳門院根合〕　和大　B1 ト250 1

〔藤原〕忠教等詠　〔源顕房〕判　〔江戸初期〕写（一筆）

外題「哥合〈嘉承〉」、本文冒頭「嘉承二年」とあるのは寛治七年の誤り。寛永一三年六月本奥書（中右記抄出で

ある旨記す）あり。光悦流に近い筆跡。九条家本。久曾神昇旧蔵。印記：久曾神／藏書

高陽院七首歌合寛治八年　水無瀬殿戀十五首歌合建仁二年九月十三夜　謌合貞永元年八月十五夜　和大 911 ト194 1

（高）中納言等詠（水）〔藤原〕良経等詠（貞）後堀河院等詠　（高）〔源〕經信判（水）釈阿（藤原俊成）判（貞）〔藤原〕定家判　〔江戸中期〕写（一筆）

（高）狭本系。勝負付・集付あり。（水）流布本系のうち歌合類聚本に近い。勝負付・集付あり。（貞）名所月歌合とも言う。第一類本。勝負付・集付あり。冷泉様筆跡。久曾神昇旧蔵。印記：森川／臧書、久曾神／藏書

関白内大臣家歌合保安二年九月十二日　和半 911 ト176 1

〔藤原忠通〕等詠〔藤原〕基俊判〔江戸後期〕写（一筆）

墨刷一一行罫紙使用。本奥書「將軍家御本申出書寫之／明應三年林鐘日　宗賢」。裏書判詞を欠く。久曾神昇旧蔵。印記：久曾神／藏書

法住寺殿歌合嘉應二年十月十六日　和半 911 ト202 1

〔藤原〕公通等詠〔藤原〕俊成判〔江戸中期〕写（一筆）

甲本系か。内題次行に「建春院北面歌合」とも記す。久曾神昇旧蔵。印記：久曾神／藏書

廣田社謌合承安二年十二月八日道因入道勸進之　和大 911 ト191 1

藤原公通等詠　藤原〔俊成〕判〔江戸中期〕写（一筆）

流布本系。表紙貼紙「土〈二百四十八〉全一冊」「比」。久曾神昇旧蔵。印記：平出氏／書室記、篁園文庫、久曾神／藏書

賀茂歌合（別雷社歌合）　和大　911 ト179 1

〔藤原〕隆季等詠　釋阿（藤原俊成）判　〔江戸前期〕写（一筆）

表紙欠（見返残存）、紙縒綴。乙本系統。久曾神昇旧蔵。印記：越川珍藏、越川文庫

〔別雷社歌合〕　和大　911 ト180 1

〔藤原〕隆季等詠　釈阿（藤原俊成）判　〔江戸前期〕写（一筆）

内外題なし。乙本系統。久曾神昇旧蔵。印記：岡本家、□○斎／臧書

御裳濯河歌合　宮河歌合　和大　911 ト166 1

西行詠　（御）〔藤原〕俊成判（宮）藤原定家判　〔江戸中期〕写（一筆）

（御）第一類本、（宮）第三類本。本奥書「此二歌於洛東山長哺以正本写之畢努々不可他見者也」、書写奥書「蓮也筆」。久曾神昇旧蔵。印記：下總﨑房／秋葉／孫兵衛／藏書、秋葉／義之／印、髙橋藏書、久曾神／藏書

御裳濯河歌合　續卅六番宮河歌合西行　和半　911 ト168 1

西行詠　（御）〔藤原〕俊成判（宮）藤原定家判　〔江戸前期〕写（葉室頼業）

（御）第三類本（ただし第一類本により訂正）、（宮）第二類本。大永二年三月本奥書あり。裏見返〔下冷泉宗家〕筆「此一冊者頼業卿真筆也」とあり。久曾神昇旧蔵。印記：頼業

左大将家百首謌合（六百番歌合）存春・夏・寄戀　和大　911 ト210 2

〔藤原良経〕等詠　〔藤原俊成〕判　文化六年（一八〇九）八月写（灌花樓）

平池豊金主人蔵本の転写である旨記す書写奥書あり。全四冊のうち第二・三冊を欠く。久曾神昇旧蔵。印記：灌

華樓／圖書記

同　存春　和大　911ト211 1

〔藤原良経〕等詠　〔藤原俊成〕判〔幕末〕　写（一筆）

久曾神昇旧蔵。印記：藤木

左大将家六百番歌合〔歌〕　宝暦二年（一七五二）二月写（一筆）　和大　911ト212 1

〔藤原良経〕等詠

寛永一七年刊本の歌のみを転写したもの。朱合点・注記あり。久曾神昇旧蔵。印記：北書

御室撰哥合正治二年三月五日當座　和大　B1ト252 1

〔守覚法親王〕等詠　〔藤原〕俊成判　〔江戸初期〕写（一筆）

合点・集付あり。久曾神昇旧蔵。印記：圓融藏、盛胤／之院、加持井御文庫

御室撰哥合正治二年三月五日當座　歌合建保二年八月十六日　和大　911ト172 1

（御）〔守覚法親王〕等詠（歌）藤原定家等詠　（御）〔藤原〕俊成判（歌）藤原定家判　〔江戸初期〕写（一筆）

（歌）は内裏歌合とも言う。合写本。能筆、911ト188 1・195ト1（春）と同筆。久曾神昇旧蔵。識語：若井利左衛門、印記：玖呂／社記

新宮撰歌合建仁元年二月廿九日　和大　911ト178 1

〔源〕通親等詠　釋阿（藤原俊成）判　〔江戸前期〕写（一筆）

目録題「二月」は「三月」の誤り。それも含め内閣文庫201-209（紅葉山文庫）本の特異本文と共通する。久曾

神昇旧蔵。印記：翠篁／書屋

撰謌合建仁元年八月十五夜和哥所　和大　911 ト177 1

藤原〔良経〕等詠　尺阿（藤原俊成）判　文化四年（一八〇七）一〇月写（荻島某）

薄葉料紙。第一類本。天正五年閏七月〔中院〕通勝（〔飛鳥井〕雅敦蔵本を令写）および延宝九年四月源玄年本奥書（中院通茂蔵本を書写）あり。久曾神昇旧蔵。印記：春曙堂蔵書、武蔵国／落栗菴／三芳野里

水無瀬殿戀哥合建仁二年九月十三夜　和大　911 ト171 1

〔藤原〕良経等詠　釋阿（藤原俊成）判　〔江戸前期〕写（葉室頼業）

水無瀬殿恋十五首歌合。流布本系のうち書陵部蔵鷹司本（266-542）に近い。木下長嘯子所蔵本と校合した旨記す本奥書あり。下冷泉宗家加証識語「此一冊実祖父葉室前亜相頼業卿真筆也／右中将藤宗家」。久曾神昇旧蔵。印記：頼業、義、爲經／之章、滕絲／氏

七社各十五番歌合　和半　911 ト165 1

慈鎮（慈円）詠　〔藤原〕俊成判　〔江戸後期〕写（一筆）

外題「慈鎮和尚自哥合」。第一類本。文安四年八月本奥書あり。久曾神昇旧蔵。印記：巖松堂古典部／波多埜扱斯書、久曾神／藏書

春日社歌合〔元久元年〕　日吉社歌合嘉禎元年十二月二十四日奉納之　和大　911 ト196 1

（春）〔後鳥羽院〕等詠（日）九条知家詠　〔藤原定家〕判　〔江戸前期〕写（一筆）

（春）新潟大学佐野文庫本と同写式。能筆、911 ト172 1・188 1と同筆。（日）は日吉社知家自歌合とも言う。筆跡は（春）

に酷似するが別筆か。久曾神昇旧蔵。印記：玖呂／社記

後京極殿御自歌合　和中　911 ト197 1

〔藤原良経〕詠　釈阿（藤原俊成）判　〔江戸後期〕写（一筆）

貞和五年本系。末尾「右後京極殿御自歌合以清月集校合」とあり。久曾神昇旧蔵。印記：久曾神／藏書

〔別雷社歌合〕　賀茂別雷社哥合〔建永二年二月〕　和半　911 ト207 1

（別）藤原隆季等詠（賀）後鳥羽天皇等詠　（別）釈阿（藤原俊成）判　（別）宝暦一一年（一七六一）三月（賀）

〔江戸後期〕写（別：〔賀茂〕兼元、賀：賀茂經樹）

四つ目綴を改装した大和綴。（別）は賀茂季通本奥書あり、天保三年九月賀茂經樹による朱訂正注記等書入・作者等系図・誤脱補写・勝負付等を附考として追加、それに同人筆（賀）を合綴する。（賀）内題もと「元暦元年九月」とあるのを〔久曾神〕昇が「正元元年三月七日」に訂正。久曾神昇旧蔵。印記：經茂／藏書

謌合建暦三年九月十三夜　和大　911 ト182 1

〔順徳天皇〕等詠　寛文一二年（一六七二）三月写（一筆）

外題「九月十三夜歌合〈建暦三年〉」。裏見返別筆にて天正十年十二月橘以継本奥書（家隆自筆本を書写）あり。

裏表紙墨書「寛文十二三十二於愚亭一校畢」を書写同時と見なす。久曾神昇旧蔵。

哥合建保二年八月十六日　和大　911 ト183 1

藤原定家等詠　藤原定家判　寛文一二年（一六七二）三月写（一筆）

外題「七十五番歌合〈建保二年八月十六日〉」。内裏歌合とも言う。裏表紙墨書「寛文十二三十二於愚亭一校畢〈以

二本也〉」を書写同時と見なす。ミセケチ多し。末尾勝負付（別筆）は校合時の追加か。久曾神昇旧蔵。印記：久曾神／藏書

哥合建保四年閏六月九日　和大　B1 ト247 1

順徳院等詠　藤原定家判　〔江戸初期〕写（一筆）

外題「内裏歌合〈建保〉」、通称「百番歌合」。御所本系。近衛流に近い筆跡。九条家本。久曾神昇旧蔵。印記：久曾神／藏書

〔土御門院百首〕建保歌合建保六年十一月四日會　和半　911 ト201 1

（土）土御門院撰（建）〔順徳天皇〕等詠（建）〔藤原〕定家判　明和九年（＝安永元年、一七七二）九月写（敬阿）

（土）乙本系。外題・扉題とも「宮内卿詠」と誤る。（建）内題「六年」は「五年」の誤り。冬題歌合・建保五年満座歌合とも言う。正慶二年閏二月校合・三年一一月加判本奥書あり。久曾神昇旧蔵。印記：敬阿、久曾神／藏書

石清水若宮詞合寛喜四年三月廿五日　和大　911 ト189 1

藤原定家等詠　藤原定家判　〔江戸前期〕写（一筆）

表紙右下墨書「廿四ノ壱八弐三／百四十冊ノ内」。久曾神昇旧蔵。印記：久曾神／藏書

歌合貞永元年七月光明峰寺摂政家　和大　911 ト192 1

〔九条〕基家等詠　〔藤原〕定家判　寛文五年（一六六五）四月写（一筆）

本文共紙表紙、紙縒綴。外題「光明峯寺歌合」。第二類第二種本。各番「勝」字は朱書。末尾に「百首題」二種（延文百首および四季五〇首・雑五〇首の特異な題）を記す。久曾神昇旧蔵。印記：交埜／庫、中嶋良胤庫

同　和大　911ト193 1

同　〔江戸前期〕写（一筆）

本文共紙表紙、紙縒綴。外、題なし。第二類第二種本、ただし定家跋あり。一首二行書、集付・墨異文注記・朱傍書あり。久曾神昇旧蔵。印記：玖呂／社記

遠嶋歌合　和大　911ト195 1

〔後鳥羽院〕等詠　〔後鳥羽院〕判　〔江戸中期〕写（一筆）

裂表紙・大和綴。冒頭の題・作者部分朱別筆にて追加。裏見返朱書「美矢城飛路阿川造書」（冒頭追加部分と同筆）。久曾神昇旧蔵。印記：久曾神／藏書

影供歌合建長三年九月十三夜　和半　911ト188 1

〔後嵯峨院〕等詠　〔藤原為家〕判　〔江戸前期〕写（一筆）

第一類本。嘉暦三年八月法眼仲顕本奥書あり。集付あり。能筆、911ト172 1・ト195 1（春）と同筆。久曾神昇旧蔵。印記：玖呂／社記

同　和半　911ト187 3

同　〔江戸中期〕写（一筆）

第一類本。嘉暦三年八月法眼仲顕本奥書あり。集付あり。久曾神昇旧蔵。中冊見返「巴」印字貼紙あり。

亀山三十六人歌合〔抄出〕　和枡型　911ト163 1

〔藤原基家〕編　〔寛文三年（一六六三）〕二月写（〔蜂須賀〕光隆）

列帖装、金襴表紙。定家様書風。『三十六人大歌合』全二一〇首から各番一番ずつ計三六首を抄出したもの。久曾神昇旧蔵。

新名所繪歌合（序）　和半　911 ト175 1

大中臣定忠等詠　〔二条〕為世判　〔江戸中期〕写（一筆）

伊勢新名所歌合。久曾神昇旧蔵。表紙に貼紙墨書「三十二之内／壱」。印記：篁園文庫、翠篁／書屋、久曾神／藏書

歌合伏見院（五種歌合〈正安元年三月〉）　和大　911 ト209 1

〔伏見院〕等詠　〔江戸中期〕写（一筆）

外題「伏見院歌合」。第一類本。久曾神昇旧蔵。同氏メモ挿入。

五十番歌合關白家貞治五年十二月廿日當座（年中行事歌合）　和大　B1 ト253 1

二条〔良基〕等詠　二条〔良基〕判　〔近世初〕写（伝五辻為仲）

第二類本。勝負付あり。フリガナ・異文注記等あり。初代朝倉茂入極札および文政一〇年穂積定（安甫）加証識語紙片貼付。久曾神昇旧蔵。印記：香雨樓／臧書記、香雨（連印）、百、翠篁／書屋、久曾神／藏書

年中行事〔歌合〕　和大　B1 ト254 1

二条〔良基〕等詠　二条〔良基〕判　〔江戸初期〕写（伝阿野実顕）

第二類本。勝負付なし。〔細川〕藤孝本奥書に続けて「此一冊幽斎尊老以自筆之本令書写者也」と奥書、その脇に別筆にて「實顕卿御筆也」とあり。光悦流筆跡。久曾神昇旧蔵。印記：加藤／龜松

年中行事歌合　和大　911 ト167 1

二条〔良基〕等詠　二条〔良基〕判　〔江戸前期〕写（一筆）

第一類本。光悦流に近い筆跡。久曾神昇旧蔵。印記：久曾神／藏書

新玉津嶋社歌合　和大　B1 ト251 1

〔二条良基〕等詠　〔江戸初期〕写（一筆）

九条家本。久曾神昇旧蔵。印記：玖侶／社記

五百番哥合二巻　和大　911 ト174 2

〔長慶天皇〕等詠　〔宗良親王〕判　〔寛延二年（一七四九）〕写（一筆）

南朝五百番歌合。合点・勝負付あり。書写奥書、東井文庫（曲直瀬玄朔）本を書写した旨記す。年記「延享己巳」と誤るが、干支を優先した。落款印「信濃／中書王／十二世之裔」「氏河口名／尹當／字曰順行」。久曾神昇旧蔵。印記：田出／書院、菊園／飯島／文庫

同　存巻上　和大　911 ト173 1

〔長慶天皇〕等詠　〔宗良親王〕判　〔江戸中期〕写（一筆）

二百五十番までを収める。合点・勝負付あり。久曾神昇旧蔵。同氏メモ挿入。

仙洞哥合　寶徳　和半　911 ト170 1

〔後花園天皇〕等詠　〔一条兼良〕・祐雅（飛鳥井雅世）判　〔江戸前期〕写（葉室頼業）

後崇光院仙洞歌合・宝徳二年十一月仙洞歌合とも言う。末尾「頼業（印文不明）」。久曾神昇旧蔵。印記：頼業、

冷泉藏書、爲／直（頼業三男、下冷泉家養子、のち為経）

歌合内裏康正元十二廿七　和大　B1 ト248 1

〔後花園天皇〕等詠　飛鳥井雅親判　〔江戸初期〕写（一筆）

外題「内裏哥合〈康正元十二廿七〉」。九条家本。久曾神昇旧蔵。印記：玖侶／社記

尭孝哥合　和半　911 ト184 1

尭孝詠　冷泉為廣判　明和四年（一七六七）一〇月写（猛雅）

間似合紙料紙。元禄七年刊本の写しか。久曾神昇旧蔵。印記：式枝／子

百三十番歌合文明五年十一月七日按察親長卿家　和大　911 ト190 1

久我〔通尚〕等詠　一條〔兼良〕判　〔江戸中期〕写（一筆）

按察使親長卿家歌合。奥書なし。久曾神昇旧蔵。

庚申當座哥合文明（外）　和大　911 ト181 1

〔後土御門天皇〕等詠　〔一条兼良〕判　〔江戸前期〕写（一筆）

巻首題「謌合」、末尾に勝負付および「文明十年九月二日〈庚申當座〉」とあり。久曾神昇旧蔵。印記：當／治

文明十四年歌合　和半　911 ト164 1

〔勝仁〕親王等詠　〔飛鳥井〕雅親（栄雅）判　〔江戸前期〕写（一筆）

将軍家歌合〈文明十四年七月二十六日〉。列帖装、外題「文明御歌合」。久曾神昇旧蔵。印記：有馬氏／重廣印

文亀三年御哥合　和半　911 ト169 1

〔後柏原天皇〕等詠　〔冷泉〕為廣判　〔江戸前期〕写（葉室頼業）

三十六番歌合・内裏歌合〈文亀三年〉とも言う。外題「詩歌合〈文明十四年〉」に誤る。裏見返〔下冷泉宗家〕筆「此一冊頼業卿真筆也」とあり。久曾神昇旧蔵。印記：義、頼業

仙洞哥合 寛永十六年十月五日　和半　911 ト206 1

〔後水尾院〕等詠　〔三条西〕實條判　宝永二年（一七〇五）夏写（駒沢八郎右衛門親房）

仙洞三十六番歌合。外題「御哥合」。素・香二色料紙を交互に使用。難陳なし。書写年代は舟也の令写奥書による。文政元年・二年の加筆あり。久曾神昇旧蔵。

職人盡歌合　職人哥合　和半　911 ト199 1

（盡）闕名者撰（哥）伝〔烏丸〕光廣撰　〔江戸後期〕写（一筆）

本文共紙表紙・紙縒綴。（盡）は東北院職人歌合広本、（哥）は職人歌仙、ただし結番せず、紺掻・海士人各二首、計三八首あり。久曾神昇旧蔵。

鎌倉職人歌合　和半　911 ト200 1

闕名者撰　〔江戸中期〕写（一筆）

東北院職人歌合広本。冒頭に勝負付あり。元和七年正月書写・寛永元年九月校合の本奥書（親顯）あり。久曾神昇旧蔵。印記：古川氏／圖書記、加藤氏臧

〔職人歌合等四種〕　和半　911 ト204 1

山口親尹編　明治二一年（一八八八）三月写（自筆）

本文共紙薄葉縹色刷一四行罫紙。1．十二類歌合、2．〔東北院〕職人歌合（広本）、3．〔職人歌仙〕（三六首）、4．〔七十一番職人歌合抄出〕（全二〇番）。久曾神昇旧蔵。

十五番歌合（外「虫合」）

闕名者撰　〔江戸中期〕写（政勝）　和半　911 ト205 1

虫歌合。列帖装一折を大和綴にする。料紙間似合紙。ふりがな多し。久曾神昇旧蔵。印記：下條／藏書

〔下養狂歌絵巻断簡〕

〔半井ト養〕撰　闕名者画　〔江戸前期〕写　和　092 ト170 14

全一四葉、茶染絹本墨書・淡彩。日本古典文学会本の順に「きしれうり」「しのひても」「枝もなく」「加様にも」「三味線の」「柴かきを」「もの丶ふの」「楊貴姫の」「またと世に」「ねにたて丶」「題はみつ」「黒こまの」「嘉例にし」「うつくしき」。裏打。金覆輪あり。

通小町（外）

〔観阿弥〕撰　〔近世初〕刊　和半　091 ト428 1

古活字版。光悦謡本のうち上製本（列帖装、薄紅色地桐散らし雲母刷、具引料紙）。

山姥（外）

〔世阿弥〕撰　〔近世初〕刊　和半　091 ト429 1

古活字版。光悦謡本のうち特製本（列帖装、薄紅色竹雲母刷表紙、色変わり具引料紙）。八オ六行目「まつかせ」擦消訂正押印。

舟辨慶　和半　912 ト3 1

〔観世信光〕撰　安永五年（一七七六）刊（江戸：須原屋茂兵衛、戸倉屋喜兵衛）

喜多流謡本。題簽「舩辨慶」。末尾一張切取。朱節付書入。識語：田宮久太郎　＊田宮道雄氏寄贈

鵜鷹羽　安宅　夕顔　西行櫻　二人静　和半　912 ト4 1

世阿弥等撰　元禄九年（一六九六）正月刊（京：川勝五郎右衛門）

観世流五番綴百番謡本のうち。識語：横山安次郎、田宮三郎　＊田宮道雄氏寄贈

つちくも　和半　912 ト5 1

闕名者撰　〔江戸後期〕写（一筆）

外題打付墨書「土蜘」。見返墨書「喜多流」。識語：文政拾壱　田宮氏　＊田宮道雄氏寄贈

天智天皇　和半　912 ト36 1

〔近松門左衛門〕撰　〔江戸前期〕刊

一〇行三二張本。表紙見返改装のため元題簽・刊記等なし。ただし裏見返墨書「元録（ママ）弐（「元」に貼紙上書）年己未三月三日」とあり。巻首に朱長方印「遠松」、その上に黒菱形印「門」、巻末に青長方印「近杏」押捺。表紙貼紙「千六百四拾九番／壱冊ホ（？）シ」とあり、印文不明黒長方印押捺。　＊田宮道雄氏寄贈

壇浦兜軍記　和半　912 ト6 1

文耕堂・長谷川千四撰　〔享保一七年（一七三二）九月〕初演〔幕末明治〕印（大阪：加嶋清助）

七行本、竹本義太夫正本。　＊田宮道雄氏寄贈

苅萱桒門筑紫轢　和半　912ト7 1

並木宗輔・〔並木丈輔〕撰　享保二〇年（一七三五）八月初演　後修〔幕末明治〕印（大阪：加嶋清助）

七行本、豐竹若太夫・此太夫正本。題簽に「紙屋與右ェ門板」、巻首題上に「再版」、下に「座本豐竹越前少掾」とあり。

＊田宮道雄氏寄贈

和田合戦女舞鶴　和半　912ト8 1

並木宗輔撰　〔元文元年（一七三六）三月〕初演刊（大坂：正本屋九左衛門）

七行本、豐竹越前少掾正本。表見返「此本何方江参り候共早々御返し奉頼候／小松原雀躍」とあり。識語：専藏、印記：（入山形に）森半　＊田宮道雄氏寄贈

御所櫻堀川夜討　和半　912ト9 1

文耕堂・三好松洛撰　〔元文二年（一七三七）正月〕初演刊（京：山本九兵衛、大坂：山本九右衛門、江戸：鱗形屋孫兵衛）

七行本、竹本大和掾正本。題簽「竹本筑後掾直傳／山本九兵衛新板」とあり。識語：大和屋佐七　＊田宮道雄氏寄贈

逆櫓松矢籠梅ひらかな盛衰記　和半　912ト10 1

文耕堂等撰　元文四年（一七三九）四月初演　〔幕末明治〕印（大阪：加島屋清助等六肆）

七行本、竹本重太夫正本。墨注記あり。識語：濱大夫、印記：□金　＊田宮道雄氏寄贈

風俗太平記　和半　912ト11 1

為永太郎兵衛〔一世〕等撰　寛保三年（一七四三）三月初演刊（大坂：西澤九左衛門）
七行本、豊竹越前少掾正本。題簽題角書「鳴門緋袴／鹿間掲染」。朱注記あり。印記：奈河晴助、木原（？）識語：泉郡池田谷和田村藤原与エ門持　＊田宮道雄氏寄贈

攝州渡邊橋供養

和半　912ト12 1

〔並木丈輔〕（豊丈助）等撰　寛延元年（一七四八）一一月初演刊（大坂：西澤九左衛門）
七行本、豊竹越前少掾正本。朱注記あり。印記：褒、□熊、書林／大阪塩町／三休橋北／山本與助　＊田宮道雄氏寄贈

恋女房染分手綱

和半　912ト13 1

吉田冠子〔一世〕・三好松洛撰　寛延四年（＝宝暦元年、一七五一）二月初演刊（京：正本屋山本九兵衛、大坂：山本九右衛門、江戸：鱗形屋孫兵衛）
七行本、竹本大隅掾正本。朱注記あり。印記：中野／吉、板元／万（上部に軍配の絵あり）、不明黒長方印　＊田宮道雄氏寄贈

一谷嫩軍記

和半　912ト14 1

並木宗輔等撰　宝暦元年（一七五一）一二月初演　明和四年（一七六七）秋再板〔幕末明治〕印（大阪：加嶋清助）
七行本、豊竹若太夫・此太夫正本。＊田宮道雄氏寄贈

奥州安達原

和半　912ト15 1

竹田和泉等撰　宝暦一二年（一七六二）九月初演刊（京：山本九兵衛、大坂：山本九右衛門、江戸：鱗形屋孫兵衛）

七行本、竹本大和掾正本。題簽「竹本筑後掾直傳／竹本大和掾相傳／山本九右衞門新版」とあり。印記：田村
＊田宮道雄氏寄贈

番場忠太紅梅箙

和半　912 ト16 1

若竹笛躬・中邑阿契撰　宝暦一三年（一七六三）一二月初演刊（大坂：正本屋小兵衞、江戸：鱗形屋孫兵衞）
七行本、豐竹越前少掾・筑前少掾正本。題簽題角書「五條坂の／［かぎり］は／［建仁寺］の／陀羅尼」。朱注記あり。
識語（朱）：明和弐酉正月十六日　＊田宮道雄氏寄贈

官軍一統志

和半　912 ト17 1

〔浪岡鯨児〕撰　宝暦一四年（＝明和元年、一七六四）四月初演刊
七行本、末尾一張補写、裏見返刊記等欠。落書又貸を禁ずる中村松江の摺物貼付、「松嶋（？）亭」割印あり。識語：本主八幡屋（「上里」に貼紙上書）、印記：弐／光、堺川長、本政、午（三光・松江・八幡屋はいずれも二代目中村富十郎）　＊田宮道雄氏寄贈

武田信玄 長尾謙信 本朝廿四孝

和半　912 ト18 1

近松半二等撰　明和三年（一七六六）正月初演刊（京：山本九兵衞、大坂：山本九右衞門、江戸：鱗形屋孫兵衞）
七行本、竹本筑後掾正本。朱注記あり。早い返却を促す「本ぬし長梯たゑ」の識語あり。識語：（朱）嶋長印、印記：丹／和／疊與／川、中之都、冨　＊田宮道雄氏寄贈

高師直 塩冶判官 太平記忠臣講釋

和半　912 ト19 1

近松半二等撰　明和三年（一七六六）一〇月初演刊（京：山本九兵衞、大坂：吉川宗兵衞、江戸：鱗形屋孫兵衞）

七行本、竹本筑後掾正本。朱墨注記多し。識語：大塚（？）性　印記墨滅あり。　＊田宮道雄氏寄贈

泉州小田居茶屋
摂州殿下茶屋
三日太平記

近松半二等撰　　明和四年（一七六七）一二月初演〔幕末明治〕印（大阪：加島屋清助等六肆）　和半　912 ト 20 1

七行本、竹本義太夫正本。包紙をくるみ表紙として貼付、「大坂舩町／紙屋與右衛門板」とあり。包紙に「安政五午年十一月いなり芝居ニて　鶴澤三蔵」と朱書あり。　＊田宮道雄氏寄贈

近江源氏先陣舘

近松半二等撰　明和六年（一七六九）一二月初演刊（京：山本九兵衛、大坂：吉川宗兵衛、江戸：鱗形屋孫兵衛）　和半　912 ト 21 1

七行本、竹本義太夫正本。印記：田村　＊田宮道雄氏寄贈

十三鐘
絹懸柳
妹背山婦女庭訓

近松半二等撰　明和八年（一七七一）正月初演刊（京：山本九兵衛、大坂：吉川宗兵衛、江戸：鱗形屋孫兵衛）　和半　912 ト 22 1

七行本、竹本義太夫正本。題簽に「吉川宗兵衛□板」とあり。印記：書林／大阪塩町／三休橋北／山本與助　＊田宮道雄氏寄贈

梅野
由兵衛
迎駕籠死期茜染

竹本三郎兵衛〔二世〕・寺田兵藏撰　明和八年（一七七一）八月初演刊（江戸：鱗形屋孫兵衛、大坂：阿波屋平七）　和半　912 ト 23 1

七行本、豐竹嶋太夫・岡太夫正本。印記：本政、ナコヤ／［　］／本屋［　］　＊田宮道雄氏寄贈

後太平記瓢實録

菅專助・若竹笛躬撰　　安永元年（一七七二）一二月初演〔幕末明治〕印（大阪：加島屋清助等六肆）　和半　912 ト 24 1

七行本、豊竹若太夫・此太夫正本。題簽「大阪舩町／加嶋屋清助板」とあり。　＊田宮道雄氏寄贈

子の載子の日 立春姫小松　和半　912 ト25 1

青江堂等撰　安永九年（一七八〇）正月初演刊

七行本。刊記等欠。作者欄には「増補／作者」とあり。印記：名古屋／伊勢屋太兵衛／門前町、京政、本政　＊田宮道雄氏寄贈

おしゆん傳兵衛 近頃河原達引　和半　912 ト26 1

中村重助〔二世〕撰　天明五年（一七八五）九月刊〔江戸後期〕印（大坂：大津屋佐々井治郎衛門、江戸：鱗形屋孫兵衛）

七行本。天明二年春大坂初演の際正本が刊行されなかった旨の跋あり。作者は「中村重助再撰」とあり。豊竹若大夫・此大夫正本。　＊田宮道雄氏寄贈

有職鎌倉山　和半　912 ト27 1

菅専助・中村魚眼撰　寛政元年（一七八九）六月初演刊（京：菊屋七郎兵衛、大坂：正本屋小兵衛）

七行本、豊竹此大夫正本。　＊田宮道雄氏寄贈

賀君は源家の類葉 姫君は平家の落人 蝶苍形名歌嶋臺　和半　912 ト28 1

〔若竹笛躬・中村魚眼〕撰　〔寛政五年（一七九三）七月〕初演刊

七行本。尾欠。　＊田宮道雄氏寄贈

日本賢女鑑　和半　912 ト29 1

近松やなぎ・近松松助撰　　寛政六年（一七九四）一〇月初演　〔幕末明治〕印（大阪：加島屋清助等六肆）

七行本、豊竹若太夫・此太夫正本。印記：田村　＊田宮道雄氏寄贈

比良御陣雪舛形

和半　912 ト30 1

梅野下風・中村魚眼撰　寛政一〇年（一七九八）正月初演刊（京：菊屋七郎兵衛、大坂：亀屋善七、和多屋喜兵衛）

七行本、豊竹越太夫・麓太夫正本。題簽「正本所和多屋喜兵衛新刊」とあり。表紙に松本文明堂貼紙「ワ印六番」とあり。印記：大津大、明伊、中喜、松本／文明堂　＊田宮道雄氏寄贈

風雅でなし 洒落でなし 忠臣一力祇園曙

和半　912 ト31 1

司馬芝叟撰　寛政一〇年（一七九八）八月初演刊（大坂：勝尾屋〔六兵衛〕等五肆）

七行本、豊竹時太夫正本。刊記の一部欠損。表紙貼紙「廿壱番」とあり。印記：本善、本政　＊田宮道雄氏寄贈

纐纈紺屋譜

和半　912 ト32 1

中村魚眼等撰　寛政一一年（一七九九）四月初演刊（大坂：武田宗輔等六肆）

七行本、竹本政太夫・豊竹麓太夫正本。落書又貸を禁ずる河長店の摺物貼付、「松嶋（？）亭」「弍／光」「丑」割印あり。印記：常店／河長、松嶋（？）亭、本政　（三光・松江・八幡屋はいずれも二代目中村富十郎）　＊田宮道雄氏寄贈

假名手本 義士の書添

和半　912 ト33 1

屏風裏形（賀雀堂）撰　享和三年（一八〇三）八月初演刊（江戸：松本平助、大坂：天満屋安兵衛）

七行本、豊竹麓太夫正本。作者名は序文による。題簽「正本所天満屋安兵衛新板」とあり。＊田宮道雄氏寄贈

小田の幼君 北畑の名君 八陳守護城　和半　912 ト34 1

中村漁岸・佐川藤太撰　文化四年（一八〇七）九月初演刊（江戸：松本平助、今井七郎兵衛、玉置清七）

七行本、豊竹麓太夫正本。題簽「正本所本屋清七板」。　＊田宮道雄氏寄贈

忠臣名誉 白狐霊徳 契情小倉の色紙　和半　912 ト35 1

山田案山子・春の家有齋撰　天保一一年（一八四〇）正月初演刊（大坂：塩屋喜兵衛）

七行本、竹本政太夫・豊竹麓太夫正本・綱太夫正本。末尾「筆耕　征井鶴輔」とあり。印記：播熊、松伊　＊田宮道雄氏寄贈

假名手本忠臣藏四ツ目　和半　912 ト37 1

〔竹田出雲等〕撰　〔江戸中期〕刊（大坂：天満屋玉水源次郎）

外題「塩冶舘の段」。表紙右下瓢箪形内「廿一」とあり。印記：大阪せんば／本平幸／いなり［　］　＊田宮道雄氏寄贈

日本賢女鑑八冊目　和半　912 ト38 1

〔近松やなぎ・近松松助〕撰　〔江戸後期〕刊〔明治〕印（大阪：加島屋竹中清助）

外題「〈再／板〉木津守護舘段／賢女鑑　八ツ目」。表紙右下瓢箪形内「三十」とあり。巻末「浪花和田正兵衛筆」とあり。　＊田宮道雄氏寄贈

中将姫雪責の段　和半　912 ト39 1

〔並木宗輔〕撰　〔江戸後期〕刊〔明治〕印（大阪：竹中清助、加島清助蔵版）

外題「中将姫古跡の松／雪責の段　竹本綱太夫章」。表紙右下瓢箪形内「三十三」とあり。刊記裏に代赭方印「淨瑠璃／製本所／竹中証」押捺。巻末「浪花和田正兵衛筆」とあり。素紙覆表紙あり。　＊田宮道雄氏寄贈

八陣守護城八冊目の切　　和半　　912 ト40 1

〔中村漁岸・佐川藤太〕撰　　〔江戸後期〕刊

原表紙欠、診察料支払の包紙反古を後補表紙に利用。　＊田宮道雄氏寄贈

三国傳記一二巻　　和大　　913 ト93 1

釈玄棟撰　　寛永一四年（一六三七）二月刊（京：水得市助）

巻十一・十二合冊。無刊記本とほとんど刷りは変わらないが、本書が早印か（巻一・一六オ縦匡郭の切れ目の有無）。識語：幡良（花押）

傾城禁短気六巻　　和横中　　913 ト92 6

〔江島其磧〕撰　　〔宝永八年（＝正徳元年、一七一一）四月〕刊（〔京：八文字屋八左衛門〕）

無刊記。折紙綴。巻四入れ本、原装浅葱色無地表紙・原題簽。巻一表紙貼紙「卯弐百拾九番／全部六冊」、見返貼紙「未新改／第卅六米田／全部六冊」（不明朱墨印あり）、巻四を除き全張裏打、上欄に紙縒綴穴痕あり。巻四「さかくら／李三」墨書あり。印記：堺彦（巻四を除く各冊）

蛙の物真似四巻存巻一・二　　和半　　913 ト96 1

克斎主人撰　　〔享保一四年（一七二九）正月〕刊（〔江戸：舛屋多右衛門等三肆〕）

合冊。初期の談義本。自序落款「宮氏」「惟愿之印」。印記：本傳　＊田宮道雄氏寄贈

實傳正史いろは文庫一八編五四巻欠第三・四・八・十・十二・十三・十七編　和中　913 ト95 1

為永春水・〔二世〕為永春水撰　溪齋英泉等画　天保七年（一八三六）正月至明治五年（一八七二）正月序刊（江戸：中村屋幸藏等三肆）（第一編）

第五編より二世撰。第二編刊記は大坂：河内屋茂兵衛等三肆、他は無刊記。各編冒頭序・口絵多色刷、第一編「義士夜討舊地之畧圖」折込あり。汚れイタミあり。第一・六・十一編表紙に「致良貸本處（上部横書）」「中井明誠堂」蔵書票あり。印記：霞亭文庫　＊田宮道雄氏寄贈

通俗忠義水滸傳〔四七〕巻存巻九後欠　和大　913 ト102 1

〔岡島冠山〕編訳　慶応二年（一八六六）二月写（〔田宮〕穆風齋）

書写奥書カ「田宮虎次郎／于時慶應三〈丁卯〉二月十一日本（？）之」　識語：土佐國鏡郡本赤岡後移居野市田〔□穆〕（破取）風齋處持、田宮本家所持、大日本六十六ヶ國之内南海道土州香我美郡野市村西野町田宮穆雨　＊田宮道雄氏寄贈

繪本楠公記三編三〇巻存初編巻七・八・十、二編巻一至三・五至八・十　和半　913 ト99 1

〔速水春曉齋撰幷画〕　〔寛政一二年（一八〇〇）正月至享和元年（一八〇一）夏〕刊後印（江戸：弘簡堂須磨勘兵衛）

初編巻一首に「山田得翁齋述」とあるが不審。二・三編同様春曉齋作画としておく。印記：河野／輔道　＊田宮道雄氏寄贈

東遊奇談五巻存巻五　和半　913 ト97 1

一無散人撰　　寛政一三年（＝享和元年、一八〇一）刊（京：著屋儀兵衛等四肆）

奇談もの。印記：具重、組喜　＊田宮道雄氏寄贈

風聲夜話 天橋立（あまのはしだて）三編五巻存巻一　　和半　913 ト98 1

十返舎一九撰〔歌川〕（一陽齋）豊國画〔文化三年（一八〇六）正月〕刊（〔江戸：鬻屋金助〕）

外題・序題「〈復讐奇語〉天橋立（あまの）」、見返「〈復讐〉天橋立」、目録題「復讐天橋立（かたきうちあまのはしだて）」。序・口絵・目録厚手料紙を使用。

印記：貸本所／堂島櫻橋／はし本／南詰東入、播州／室與／二見　＊田宮道雄氏寄贈

斐陀匠物語六巻　　和半　913 ト94 6

〔石川雅望〕（六樹園）撰〔葛飾北斎〕画〔文化六年（一八〇九）正月〕刊後印（江戸：文溪堂丁子屋平兵衛）

外題「〈新板〉飛弾匠物語」。疲れ本。見返し戯書多し。　＊国文学研究室寄贈

繪本通俗三國志八編七五巻存四編一〇巻　　和半　913 ト100 10

池田東籬（〔東籬亭〕）撰　葛飾戴斗画　天保九年（一八三八）夏刊後印（大坂：河内屋茂兵衛等一一肆）

巻一口絵多色刷。第一冊表紙および見返に貸本屋貼紙（刷）あり。見返のものに「大和國廣瀬郡古寺村／武村伊造」とあり。印記：古寺／武村、京寺町／池田惣／二条南　＊田宮道雄氏寄贈

太平基軍傳〔二篇六〇巻〕存巻一至三　　和半　913 ト101 1

闕名者撰　　〔江戸後期〕写（一筆）　＊田宮道雄氏寄贈

丹丘謾筆□巻存巻一・二　　和半　B1 ト256 2

田宮穆風齋（竹右衛門）撰　　天保一三年（一八四二）二月至一四年二月写（自筆）

巻二尾題「淇園謾筆」とあり。識語：穆風齋藏本　＊田宮道雄氏寄贈

穆風齋日志　和半　B1 ト257 1

〔田宮〕穆風齋（〔竹右衛門〕）撰　嘉永四年（一八五一）一一月至五年一一月写（自筆）

嘉永五年正月八日と八月一日の間は記さず。後遊紙に詩稿等書入、慶応二年の作を含む。　＊田宮道雄氏寄贈

山陽先生手簡眞跡（箱書）　和半　092 ト176 2

〔頼〕山陽撰　〔江戸後期〕写（自筆）

巻子本。各軸三通、計六通を収める。すべて『頼山陽書翰集』に東京原安民所蔵として所収、文政九年至天保三年および年次不明。五通は原老柳宛、一通は仲助（老柳の子か）宛。各軸に宮原節庵題字、頼支峰跋、箱蓋裏に節庵および頼潔識語あり（節庵・支峰は明治一八年、潔は大正一〇年）。付属文書として秋浦なる人物の解説を付す。巻紐に「鈴木梅四郎」と記す三越の小札あり。印記：原家／愛藏

小野寺十内手簡（序題）　和半　916 ト2 1

伝小野寺秀和撰　〔幕末〕写（田宮穆風齋）

天保一四年正月〔春日〕潜庵子序によると、友人山田子友の家で見て写したという。識語：穆風館蔵書　＊田宮道雄氏寄贈

徂徠集管見（外）　和半　919 ト359 1

闕名者撰　天保一四年（一八四三）正月写（二筆）

徂徠集巻八至十九所収作品の語注。四周単辺一〇行墨刷罫紙使用。書写奥書「天呆癸卯正月寫之／巖邑藏本」。

水損あり。伝本東北大狩野文庫のみ。

〔田中桐江文巻〕　和半　092 ト175 1

〔田中〕桐江撰　〔江戸中期〕写（自筆）

巻子本。「〔與田良暢〕」「盆石記」（末尾享保十八年正月の年記あり）「古瓦硯記」（末尾享保十六年三月の年記あり）を収める（いずれも『樵漁餘適』所収）。外題小紙片墨書「桐江先生」。印記：濱和助

南郭先生文集初編一〇巻存巻一至三　和大　919 ト361 2

服〔部〕南郭（元喬）撰　望〔月鹿門〕（三英）編　〔伊藤南昌〕（滕元啓）校　〔享保一二年（一七二七）九月〕刊（〔江戸〕：嵩山房〔須原新兵衛〕）

＊田宮道雄氏寄贈

分耕詩爭　和半　092 ト173 1

釈蘭陵〔越宗〕・藪〔孤山〕撰　〔伊形霊雨〕・高〔本紫溟〕・米〔田松洞〕批　〔江戸中期〕写（寄合書）

九行浅葱色刷罫紙（巻子本に改装）。蘭陵と孤山の同題の詩を匿名で並記し、伊形霊雨・高本紫溟・米田松洞が甲乙および評語を朱墨で加えたもの。詩は代筆（筆跡を隠すためか）、評も各自筆ではなくまとめて一筆で記す。巻末「安永孟秋」とあり。

〔岩下探春稿本類〕　和大　091 ト431 13

岩〔下探春〕（通亮）撰　〔江戸中期〕写（自筆）

熊本藩儒岩下探春（一七一六―八五）自筆稿本および漢籍写本。1. 桐子命二巻存巻一天文（時習館名入罫紙）、

2．左傳比事〔文矩〕（元・呉化龍撰『左傳比事（左氏蒙求）』の注釈。月峯なる人物の朱批あり）、3．〔詩集〕（朱句点・合点あり、冒頭別筆「霜月十四日閲畢」とあり。新補表紙）、4．〔文集〕（論・説等を合綴、朱句点・批点・墨訂正等あり、秋山玉山の批評を欄上に転記）、5．儒談兵論等四篇、6．擬源頼政使仲綱檄諸源討平氏文等三篇、7．擬韓文公策問、8．奉送玉山先生序（朱批あり）、9．遊樂樂亭記（朱批あり）、10．為政以仁論、11．井田論（朱批あり）、12．通雅巻十（明・方以智撰、五二巻首三巻のうち巻十釋詁重言）、13．莊子南華眞經巻一（服部南郭校本一〇巻のうち。朱訂あり。初丁柱に「秋遊寫」とあり、あるいは探春の子の筆か）。印記：岩下／家印（13のみ）

黄葉夕陽村舍詩集

菅〔茶山〕（晋帥）撰　〔幕末〕写（〔田宮穆風齋〕）　和半　919 ト364 1

『黄葉夕陽村舍詩』巻八の冒頭を除いた大部分を転写したもの。「對越堂藏」名入り一〇行墨刷罫紙使用。＊田宮道雄氏寄贈

土左日記新解序

〔頼山陽〕撰　〔江戸後期〕写（自筆）　和大　092 ト174 1

巻子本。香川景樹『土佐日記創見』の序。『頼山陽全書』所収文集巻十二には天保元年作として篠崎小竹批本を載せるが、本書本文はそれ以前の形で推敲の痕あり、さらに闕名者朱批あり。

穆風齋詩稿

田宮〔宇内〕（北固）撰　文政五年（一八二二）至九年写（自筆）　和半　B1 ト255 1

外題（別筆カ）「北固詩集〈全〉」。八行罫色刷罫紙使用。朱墨訂正あり。識語：田宮北固先生、能市村にしまち
＊田宮道雄氏寄贈

艮齋文略三巻附東省日録・南遊襍記存巻上・中　和大　919 ト362 2

安積艮齋（信）撰　〔天保二年（一八三一）一〇月〕刊（見山樓蔵版）

印記：田宮／宇治　＊田宮道雄氏寄贈

謫居詩存〔二〕巻存巻上　和半　919 ト363 1

藤田東湖撰　門生等校　天晴元年（＝慶応三年、一八六七）八月写（〔田宮穆風齋〕）

書写奥書「天晴元八月日寫於府之新街僑居／物水小史悌識」。「天晴」は土佐の一部で用いられた私年号。朱句点等あり。識語：田宮虎次郎之悌、物水子帰、田宮子順悌、之春（いずれも本文同筆）　＊田宮道雄氏寄贈

碩水集　和半　B1 ト244 1

楠本碩水撰　明治一八年（一八八五）三月序写（自筆）

外題「碩水集〈文〉」、内題「碩水文集」ミセケチ。本文朱墨訂正あり。各題上に通し番号あり、ほぼ刊本（明治三六年刊）の収録順に一致する。表紙右下「中黙散人」擦消。印記：□鳴／□書（割印のごとく下部のみ存）

皇朝百家論文鈔三巻欠巻二・同續四巻欠巻二・三　和大　919 ト365 5

沖冠嶺編　明治一七年（一八八四）七至九月写（〔田宮〕穆風齋）

明治一一・一三年刊本の写し。正編は巻三が上下に分かれるため、外題は「巻三」「巻四」としている。書写奥書正編巻三上「明治十七年旧暦六月十日写終／穆風館」、巻三下同十四日穆風齋、續巻一同七月朔日穆風齊、巻

四同七月廿七日穆風齋淇水。書写年月は新暦に換算する。正編朱句点あり。＊田宮道雄氏寄贈

奇文欣賞四巻欠巻二・三

大槻磐溪編幷評　明治元年（一八六八）一二月序刊（京都：竹苞樓錢屋摠四郎）　和中　919 ト360 2

朱句点朱墨作者注記あり。識語：明治三庚午秋七月上浣於東京府求之／高知藩田宮虎二郎之悌　＊田宮道雄氏寄贈

漁隱叢話前集六〇巻後集四〇巻（目「苕溪漁隱叢話」）

宋胡仔撰　道光二六年（一八四六）刊（〔番禺潘氏〕）　唐中　920 ト101 1

海山仙館叢書（潘仕成編）のうち。朱句点・合点あり。

同　三巻

〔宋〕胡仔撰　近藤〔南州〕（元粹）校点　明治二七年（一八九四）二月刊（京都：聖華房山田茂助、松雲堂鹿田静七）　和大　920 ト9 3

前集六〇巻のうち冒頭三巻のみの刊行。上欄に校訂注あり。印記：油田／政印、大西氏／臧書

龍川先生文鈔〔四〕巻存巻三

〔宋〕陳〔亮〕撰　〔芥隱居士編、大橋訥菴校〕〔安政六年（一八五九）〕刊　和半　921 ト318 1

早印。外題「陳龍川文鈔」。朱句点・批点・評書入あり。識語：香川田宮氏藏本、印記：田宮／宇治　＊田宮道雄氏寄贈

王陽明詩集〔二〕巻存坤

〔明〕王〔守仁〕（陽明）撰　明治三年（一八七〇）六月写（〔田宮穆風齋〕）　和半　921 ト321 1

底本不明、「因雨和杜韻」から「長生」まで。書写奥書「明治三庚午歳夏六月下浣於東京土井屋鋪寫之了　香川

主人悌識」。　＊田宮道雄氏寄贈

新撰類林抄□巻存巻四　　和大　921 ト317 1

闕名者編　〔近代〕刊

コロタイプ影印、折本。『書苑』一―三（大正元年一月）所収図版（抄録）および別刷本と同版だが、センチュリー文化財団寄託資料中の別刷本とは装訂料紙とも異なる。西脇呉石旧蔵、同人筆題簽幷本文上欄釈文書入（書苑所収釈文に同じ）あり。印記：靜／印、西脇氏／臧書記

正文章軌範評林註釋七巻存巻一・二　　和大　921 ト319 1

宋謝枋得編　明李廷機評　〔伊〕東藍田補幷点　明治一一年（一八七八）刊（〔大阪〕：群玉堂〔岡田茂兵衛〕）見返に「明治十一年戊寅三刻」、版心下縫部に「再版」とあり。　＊田宮道雄氏寄贈

正文章軌範百家評林註釋七巻續文章軌範百家批評註釋七巻存正巻一至三續巻四至七　和大　921 ト320 2

（正）宋謝枋得編　明李廷機評　（續）明鄒守益編　焦竑評　李廷機注　闕名者点　〔正徳五年（一七一五）〕刊後印覆万治二年刊本。外題「〈新刊／校正〉（續）文章軌範評林」。印記：對越／堂藏（長方印）　＊田宮道雄氏寄贈

牡丹亭還魂記二巻　　唐大　922 ト3 2

明湯顯祖撰　二〇一九年三月序刊（復旦大學圖書館・復旦大學中華古籍保護研究院）

復旦大学図書館蔵〔萬曆〕刊七峯艸堂藏板本の複製。　＊復旦大学中華古籍保護院寄贈

長恨歌傳　長恨歌　琵琶行　　和大　B1 ト242 1

（傳）唐陳鴻（長・琵）白居易撰　闕名者点注　〔江戸初期〕写（一筆）

有界九行一九字前後、大師流書風。訓は刊本の伝清原宣賢点と異なるが、歌行部分の注は刊本と同じ。さらに欄外注あり。　印記：紅梅／文庫

滄溟先生尺牘三巻　　和大　926 ト12 1

〔明李攀龍〕撰　張所敬編　潘煥宸校　田〔中〕蘭陵校点　宝暦元年（一七五一）一一月刊（江戸：嵩山房小林新兵衛）

外題「李滄溟尺牘」。　＊田宮道雄氏寄贈

皇越詩選六巻　　越大　Gベトナム 439 2

越南裴壁〔裴輝壁〕編　　明命六年（一八二五）二月刊（希文堂）

ベトナム本。編者名、自序は「壁」とするが一般には「輝壁」と呼ぶ。ガスパルドヌ文庫追加分。

皇越文選八巻存巻一・二　　越大　Gベトナム 440 1

越南裴壁〔裴輝壁〕編　　〔明命六年（一八二五）〕刊（希文堂）

ベトナム本。編者名、自序は「壁」とするが一般には「輝壁」と呼ぶ。序文前後欠。ガスパルドヌ文庫追加分。